



韓国では、1960年代以降の急速な工業化や都市化に伴い、多くの河川において生物の生息・生育環境や水辺景観が悪化するなど、貴重な河川環境が失われていきました。河川は人工的に直線化され、それに沿って堤防が建設されました。

1980年代後期になって経済が安定してくると、社会的に環境に関心が持たれるようになり、河川管理者や研究者の間で、人工化された河川の再生の必要性が問われるようになりました。コンクリート護岸や堤防、親水性の低い都市河川について、環境改善の技術を取り入れた研究事業が始まりました。この試験研究の対象河川に良才川が選出されました。

良才川は、漢江の支流の一つであり、ソウル市南部を流れる全長15.6kmの都市河川です。1970年代の大規模な住宅整備により、洪水から守るために良才川はコンクリートの堤防で囲われました。また、河川は直線に改修され、植物は一掃され、生物の生息場所は失われました。都市化に伴い水質も悪化し、良才川のBODは15mg/lに達し、人が近づきにくい河川となりました。



直線の河道が残る再生区間の上流端付近



再生された区間を望む

韓国国内での河川環境再生の聲の高まりを受け、1995年に良才川生態公園プロジェクトが始動しました。これは、従来の治水・利水中心の画一的な河川整備ではなく、生態系の復元と人々の河川への意識の向上を目的として計画されました。自然と調和する護岸が用いられ、石をおいて水の流れを変化させることによって、瀬や淵が再生されました。曲線区間にはビオトープや河畔林などが創出されました。工事は1998年に完成し、典型的な都市河川の直線河道は、変化に富む景観的にも優れた川の姿によみがえりました。



水辺で遊ぶ子供たち

また、下水処理や浄化対策など水質改善のための様々な対策が流域全体で実施され、水質はBOD 2mg/lに改善されました。

再生後のモニタリングでは、魚類や鳥類の種数の増加が確認されています。現在の良才川は、水泳エリアや水田エリアなどいろいろな水辺機能を持ち、近所の子供たちでにぎわう都会のオアシス的な存在となっています。水辺では、映画祭やコンサートも開催されています。

また、韓国国内でも最も裕福な地域を流れる河川であり、地域住民からの河川環境改善に対する要望も多く、水質浄化運動が行われています。また、河川管理者であるソウル市江南区は親水施設の設置や自然環境保全など良才川の環境改善に積極的に取り組んでおり、様々な親水性向上のための工夫をしています。



河川公園